

大学図書館における雑誌・電子ジャーナル契約の現状

国立大学図書館協会(JANUL) コンソーシアムの概要



東京大学附属図書館 情報管理課
守屋 文葉

平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

1

国立大学図書館協会(JANUL)コンソーシアム

- ミッション(理念)
 - EJ等による情報基盤の整備
 - 学内および大学間の情報格差の解消
- コンソーシアムの形態
 - (主に)電子ジャーナルの効率的な契約を目的とする
 - いわゆる「オープンコンソーシアム」
 - ・ 交渉窓口のみ一元化
 - ・ 予算、契約、支払は各大学毎
- 運営組織
 - 学術情報流通改革検討特別委員会(平成21年度～)
 - ・ 特別委員会のメンバー構成
 - 館長等6名、部課長8名 + 協力員(図書館の実務担当者)
 - ・ 図書館長と図書館職員によるボランティア的活動

平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

2

JANULコンソーシアムの発展

(初期発展期:2000年～2002年)

- 2000年9月:電子ジャーナル・タスクフォース設置
- 2002年4月:エルゼビア他4社との間にコンソーシアム契約(合意)成立

(発展期:2002年～2003年)

- 2002年～:文部科学省「電子ジャーナル導入経費」予算措置
- 2003年～:コンソーシアム契約の対象出版社拡大(13社)
- 出版社交渉以外の活動:電子ジャーナルの利用動向調査、研修会

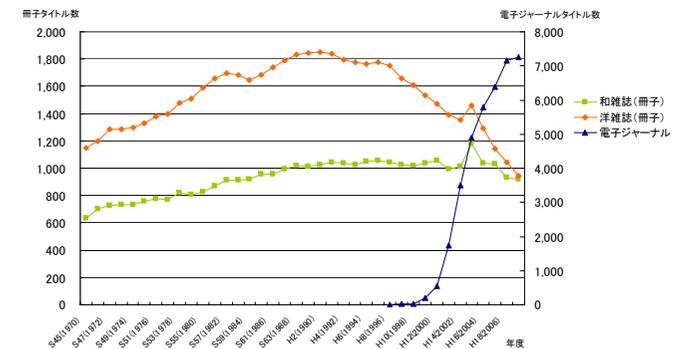
(成熟期:2004年～)

- 対象出版社の拡大、コンソーシアムへの参加館数拡大
- 国内学協会との協議
- 国内コンソーシアムとの連携の模索
 - ・ PULC(公立私立大学図書館コンソーシアム)とのゆるやかな連携
 - ＝JCOLC(Japan Coalition of Library Consortia)
 - 電子ブック/EJバックファイル/人文社会系の電子コレクション

平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

3

<成果>国立大学・雑誌受入数(平均)の推移



平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

4

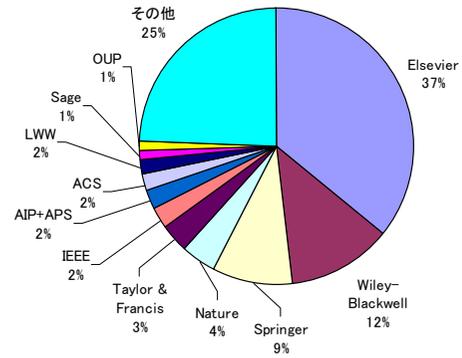
<成果> 主要出版社別参加大学数 (2009)

出版社	参加大学数	学会	JANUL 参加大学数	PULC 参加大学数
ACM	22			
ACS	46	IEICE	17	72 (公立7、私立65)
APS	42			
BioOne	7	UniBio	19 (内BioOne2が1)	8
Elsevier (Freedom Collection)	70			
IEEE-IEL	6	SCEJ	6	5
IEEE-CS	19			
Nature	53			
OUP	58			
Springer	73			
Wiley-Blackwell	68			

平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

5

<成果?> 外国雑誌経費・出版社別割合 (2009)



平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

6

JANULコンソーシアム成熟期における問題

1. 契約モデルの問題
2. 価格交渉の問題
3. 組織体制の問題

平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

7

契約モデル(ビッグディール)の問題

メリット

- 契約開始時には、わずかな追加料金でアクセスできるタイトル数が飛躍的に増加

デメリット

- 購読中止の選択権がないために、毎年の値上げ(5%程度)が続く
- ビッグディールを止めても、大幅に購読誌を削減しない限り、支出は減らない

費用対効果は高いが、出版社主導の値上げに従わざるを得ない

新しいモデルの模索

基本要件

- 価格が自動的に上昇しない
- アクセス環境が急激に悪化しない
- 個々の大学のニーズに応じてタイトルの選択ができる

平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

8

価格交渉の問題

- プライスCAP = 値上げ率に関する協議
→交渉の余地なし
- スケールメリットの限界
→契約大学(参加大学)増加の余地なし
- 他のコンソーシアムとの連携の可能性
- PULC(公立私立大学図書館コンソーシアム)との連携
→ スケールメリットの創出
- プロの交渉人の雇用？

平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

9

組織運営の問題

- ボランティア方式による限界

ちなみに、「コンソーシアムの運営に必要な業務」とはこんなもの

- 出版社対応 (事前調整・提案書精査・協議)
- 調査 (情報収集・市場調査・動向調査・契約状況調査)
- 広報 (会員館に対する連絡)
- 啓発活動 (講演、研修、説明会、原稿執筆)
- 連携 (国内外)

- 常設事務局設置の可能性の検討

平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

10

学術情報基盤整備をめぐる国内の動き

- 国立大学協会・文部科学省・JANUL
- 実務者レベル検討会(平成21年度~): 検討課題、対応方策(案)の整理
- 総合科学技術会議 基本政策専門調査会
第4期 科学技術基本計画(素案)
- 研究成果の発信と流通体制の整備・拡充
・ 機関リポジトリ、学協会が刊行する論文誌の電子化を推進
・ 公的資金による研究成果(論文及び科学データ)を、原則オープンアクセスに
・ 大学は電子ジャーナルの効率的・安定的な購読ができるよう、有効な対策を検討することが期待される。
- 日本学術会議 科学者委員会 学術誌問題検討分科会
提言「学術誌問題の解決に向けてー「包括的学術誌コンソーシアム」の創設ー」

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t101-1.pdf>

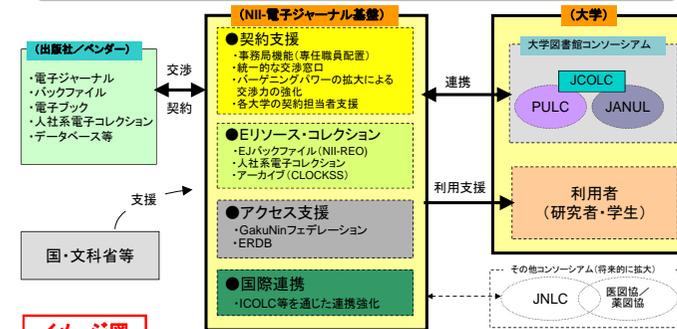
平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

11

最新情報: コンソーシアム連携へ向けて(参考)

NIIと大学図書館コンソーシアムの連携強化による電子ジャーナル等の基盤整備

●海外の電子ジャーナル等の確保と利活用の基盤を構築することにより、国内の大学等における教育・研究を推進する



イメージ図

平成22年8月24日 SPARC Japan セミナー

12